

# ～ 地域ぐるみのアライグマ被害防止対策の取組 ～

(取組主体名) 弘前市鳥獣被害防止対策協議会

(所在地) 青森県弘前市上白銀町

## ■ 組織のプロフィール

弘前市鳥獣被害防止対策協議会は、年々拡大するニホンザルやツキノワグマ等による農作物被害を防止するために、平成20年3月に弘前市、JAや地区猟友会など関係7団体で組織された。

弘前市の平成25年度の鳥獣による農作物被害額は、ニホンザル 836万円、カラス 496万円、ツキノワグマ 782万円、アライグマ 161万円など、全体で2,479万円となっている。

位置図



青森県

弘前市鳥獣被害防止対策協議会

## ◆ 取組のきっかけ

平成16年度以降、アライグマの目撃情報や被害情報が徐々に増加

- 外来生物であるアライグマは、平成16年度に県内で初めて弘前市で確認された。その後、弘前市を中心とする津軽地域において、生産者や地区住民からアライグマの目撃情報や被害情報が多数寄せられるようになったことから、平成20年度に組織された取組主体が、本格的にアライグマの被害防止対策を行うこととなった。

## ◆ 取組の内容と特徴

継続的な現地研修会の開催／地域ぐるみの被害防止対策

- 被害防止計画の策定  
鳥獣被害防止特措法に基づく「弘前市鳥獣被害防止計画」を平成20年7月に策定し、ニホンザルやツキノワグマ等とともに県内で初めてアライグマを対象鳥獣として位置づけ、箱わなの導入による捕獲活動を始めた。
- 現地研修会の開催  
外来生物であるアライグマは一般的に知られていないことから、見分け方や生態、捕獲方法について、生産者、JA、行政担当者を対象にした「被害防除対策講習会」を平成23年度に開催。それ以降、毎年、継続的に研修会を開催し、参加者の知識や技術のレベルアップに努めている。
- 弘前市広報誌へのアライグマ情報の掲載  
市民から広くアライグマに関する情報を収集するために、広報誌に「アライグマ出没注意！」等の情報を掲載している。
- アライグマ防除実施計画の策定・確認  
市民を捕獲従事者として登録し箱わな等の設置を可能にする「アライグマ防除実施計画」の確認を平成23年8月に環境省から受け、市民自らが捕獲する体制を整えた結果、アライグマの捕獲数は大幅に増加した。  
(平成22年度 16頭 → 平成23年度 47頭)



箱わなの設置講習



アライグマの現地研修会

## ◆ 課題と今後の展望

引き続き地域ぐるみでの捕獲を実施し、捕獲圧を維持

- 弘前市では、平成23年度をピークに農作物被害は減少傾向となっているが、アライグマは繁殖力が強いことから、引き続き捕獲圧を維持していく必要がある。
- 津軽地域の近隣市町村では農作物被害が拡大傾向にあることから、市町村連携による農作物被害防止対策を実施していく必要がある。

# 参考資料 [弘前市鳥獣被害防止対策協議会]

◆ 図1 広報ひろさき（平成28年5月1日号より抜粋）

### アライグマ出没注意!

近年、市内でアライグマによる農作物の食害や、家屋や倉庫への侵入が発生しています。当初は市の北部のみに出没していましたが、現在では畑のある農村部全域で目撃例があります。

**アライグマってどんな動物?**

- 肩間に黒い筋
- 白く絡取られた大きな耳
- 白く自立つひげ
- はっきりと分かれた5本指の手足
- リング状にしま模様をついた長いしっぽ

○体の特徴  
頭胴長（頭からお尻まで）42～60cm、尾長25～30cm、体重4～10kg

○生態的特性  
・夜行性で、昼間は樹洞や巣穴、家屋の屋根裏、廃屋などで休息しています。雑食で木登りや泳ぎが得意。冬期間は活動量が落ちますが、冬眠はしません。  
・アライグマは繁殖力が強く、国内には天敵がいいため、生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。繁殖期は1月～3月で、春に屋根裏にいるときは、幼獣の鳴き声が聞こえることがあります。  
・また、刺激をしない限り、自ら攻撃をしてくることはほとんどありませんが、力が強く、とても凶暴な動物です。特に子育ての時期(春～夏ごろ)は、注意が必要です。姿を見かけても刺激を与えないようにし、静かにアライグマが立ち去るのを待ちましょう。

### 住宅等への侵入が疑われるもの

- ・天井裏から大きな足音がする
- ・天井裏からキュルキュルと声がかかる
- ・家の柱や壁に付いたことのない爪跡がついている など

### 食害が疑われるもの

- ・スイカ・メロンに丸い穴が開けられ、中が空洞になっている
- ・トウモロコシが倒され、食べられている
- ・飼養しているニワトリが死んでいる
- ・池にいる鯉などの魚が減っている

### 市内で目撃されている間違しやすい動物

- ハクビシン**
  - ・鼻の先がピンク色
  - ・肩間に白い筋
  - ・尾が長く細長い、しま模様は無い
- タヌキ**
  - ・ヒゲが黒く自立しない
  - ・耳の縁が黒い
  - ・尾が短く(20cm以下)、しま模様は無い
- アナグマ**
  - ・顔が細長い
  - ・耳が小さく自立しない
  - ・ずんぐりとした体型
  - ・尾は長い毛に覆われ太く、しま模様は無い

### 【被害防止などの対策】

アライグマを減らすためには、箱わなによる捕獲が最も効率が良くとされています。また、アライグマのすみかとならないようにするため、「生ごみを放置しない」「圃地に果実や野菜を放置しない」「廃屋を解体する」「屋根裏に侵入できないように穴を閉じる」など、早期に改善を心掛けましょう。

### 【被害を受けたり、侵入の形跡があったら】

動物の仕業と思われるような異変を少しでも感じたら、農業政策課までご連絡ください。アライグマの捕獲のために捕獲用の箱わなを無料で貸し出します(えさ代は自己負担)。

◆ 表1 箱わな導入数と捕獲数 (単位：個、頭)

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27※
箱わな導入数	2	0	26	30	55	40	33	30
捕 獲 数	2	1	16	47	37	72	59	68

◆ 表2 捕獲従事者登録数と累計 (単位：人)

年 度	H23	H24	H25	H26	H27
捕獲従事者登録者数	18	150	99	17	10
累 計	18	168	267	284	294

◆ 図2 捕獲従事者によるアライグマの捕獲体系

